

COVID-19 ワクチン接種を考慮する妊婦さんならびに妊娠を希望する方へ

令和3年（2021）1月27日

改訂版 令和3年2月18日

COVID-19(新型コロナウイルス感染症)ワクチンについての日本産婦人科感染症学会および日本産婦人科学会の見解は下記の通りです（1月27日発表）

1 COVID-19 ワクチンは、現時点で妊婦に対する安全性、特に中・長期的な副反応、胎児および出生児への安全性は確立していない。

2 流行拡大の現状を踏まえて、妊婦をワクチン接種対象から除外することはしない。接種する場合には、長期的な副反応は不明で、胎児および出生児への安全性は確立していないことを接種前に十分に説明する。同意を得た上で接種し、その後30分は院内での経過観察が必要である。器官形成期（妊娠12週まで）は、ワクチン接種を避ける。母児管理のできる産婦人科施設等で接種を受け、なるべく接種前と後にエコー検査などで胎児心拍を確認する。

3 感染リスクが高い医療従事者、重症化リスクがある可能性がある肥満や糖尿病など基礎疾患を合併している方は、ワクチン接種を考慮する。

4 妊婦のパートナーは、家庭での感染を防ぐために、ワクチン接種を考慮する。

5 妊娠を希望される女性は、可能であれば妊娠する前に接種を受けるようにする。（生ワクチンではないので、接種後長期の避妊は必要ない。）

以上が医学的見解ですが、2月14日付けで厚労省は下記のように発表しました。

1 妊婦または妊娠している可能性のある女性には予防接種上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ接種すること。

2 予防接種上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続または中止を検討すること。ヒト母乳中への移行は不明である。

よって、

当クリニックの方針は、

1 ワクチン接種の有益性と副反応の可能性を良く理解した上で、ご本人が希望する場合に接種します。妊娠12週以降の妊婦対象。

2 授乳中は、ワクチン接種を推奨します。

注1：妊娠初期（12週頃まで）は、器官形成期ですので、ワクチン接種は見合わせますが、将来はインフルエンザワクチンのように推奨されるようになる可能性があります。

注2：現段階で、米国では2万人近い妊婦がワクチン接種を受けており、大きな問題は報告されていません。

注3：授乳中は母乳にワクチン成分が入ったとしても理論的に児への影響は考えられませんので、積極的に推奨したいと考えております。

令和3年（2021）2月18日

産科婦人科茅原クリニック 院長 茅原 保（拝）